

「秀」評価及びG P A制度の実施について（報告）

平成16年12月

教育改革室

「秀」評価及びG P A制度の実施準備検討WG

- は じ め に -

「秀」評価及びGPA制度については、(全学)教務委員会の成績評価等検討WGで検討し、平成14年12月に「『秀』評価及びGPA制度導入について」の報告が出されました。

また、本学の中期目標・中期計画でも、「学士課程に『秀』評価及びGPA制度を導入し、修学指導等に積極的に活用するよう努める。」とされています。

教育改革室では、その具体化に向けて、「『秀』評価及びGPA制度の実施準備検討WG」を設け、検討を行いました。

このたびその検討結果が報告され、12月16日の教育改革室会議及び17日の(全学)教務委員会の審議を経て、「『秀』評価及びGPA制度の実施について(報告)」を取りまとめました。

報告についてご意見等がありましたら、氏名、連絡先、所属を付記の上、平成17年1月31日(月)(必着)までに、電子メール又はFAXにより下記までお寄せください。なお、電話でのご意見等には応じかねますので、予めご了承願います。

皆様からいただいたご意見等につきましては、氏名又は部局・組織の名称を含めて公表をさせていただく場合があります。公表の際に匿名を希望される場合は、意見提出時にその旨書き添えてください。

また、ご意見等に対しましては、個別に回答はいたしませんので、予めご了承願います。

総長室・教育改革室
室長・理事 佐伯 浩

【ご意見等の送付先】

電子メールによる場合

メールアドレス：kyomu-k@academic.hokudai.ac.jp

FAXによる場合

FAX番号：011-706-7854

【お問い合わせ先】

学務部教務課教務企画係

TEL：内線5567，5249

「秀」評価及びG P A制度の実施について（報告）

平成 16 年 12 月 17 日

「秀」評価及びG P A制度の実施準備検討WG
座長 安藤 厚

本WGは、平成 14 年度教務委員会・成績評価等検討WGの報告「「秀」評価及びG P A制度導入について（報告）」（平成 14 年 12 月 25 日）、及び「北海道大学G P A制度（原案）」（同）を受けて、「秀」評価及びG P A制度の実施について検討を行った。以下、本WGにおける検討結果を報告する。

本制度については、本学の中期目標・中期計画にも、「学士課程に「秀」評価（優の上に秀を加えて5段階評価とする）及びG P A（grade point average）制度を導入し、修学指導等に積極的に活用するよう努める。」と記されており、本報告はその具体化である。

1. 「秀」評価及びG P A制度導入の趣旨

学生個々人のG P Aを大学（学部）として把握し、それを学生及び指導教員等に通知することは、学生の学習意欲を高める上で有効であり、かつ、これを大学院進学や卒業資格に反映させることは、社会に対して大学の教育の質を保証するという意味において、大学の責務であると考えられる。

また、この制度には、学生による履修登録単位数の自主的な上限設定を促し、厳格な成績評価に対する教員の意識を高めるなどの効果も期待できる。

さらに、一般にG P A制度は5段階の成績評価のもとで行われており、本学においても、他大学の制度との互換性を高めるとともに、よりきめ細かな成績評価を行うことによって成績優秀者にインセンティブを与えるために、「秀」評価及びG P A制度を導入する。

2. 「秀」評価及びG P A制度の実施時期

きめ細かな成績評価を行うため、現行の「優」「良」「可」「不可」の4段階評価に「秀」評価を加えた5段階評価を平成 17 年度から導入する。

この評価方式に基づくG P A制度は、平成 17 年 4 月から導入する。平成 17 年度は試行利用とし、平成 18 年度以降に本格利用とする。

3. G P A制度

（1）G P 及びG P Aの計算方法

G P：各学期ごとに授業科目の成績を5段階（秀，優，良，可，不可）で評価し，それぞれに対して，以下のグレードポイントを与える。

成績評価	秀	優	良	可	不可
G P	4.0	3.0	2.0	1.0	0

* 5段階評価による各評価の基準・割合については，「成績評価基準の明示と厳格な成績評価の実施等について」（平成14年6月19日教務委員会委員長通知）に基づいて，授業科目ごとに定める。

* 各評価と100点方式との対応は，以下の通りとするのが妥当と考える。

成績評価	秀	優	良	可	不可
100点方式との対応	90以上	89～80	79～70	69～60	59以下

G P Aの計算式：

【学期G P A】

その学期に評価を受けた科目で得た取得ポイントの合計

その学期に評価を受けた科目の単位数の合計

【通算G P A】（ある学期末でのG P A）

（各学期に評価を受けた科目で得た取得ポイントの合計）の総和

（各学期に評価を受けた科目の単位数の合計）の総和

注1．取得ポイントとは，「（評価を受けた科目で得たG P）×（その科目の単位数）」である。

注2．G P Aの計算は，小数点第3位以下を切り捨てるものとする。

注3．通算G P Aの計算で，必修科目（選択必修科目を除く。）を再履修し，単位を修得した場合は，当該科目を履修する以前に履修登録した同一科目の単位数及び取得ポイントを計算式から除く。

注4．成績証明書へのG P Aの記載については，今後検討する。

（2）対象学生

本制度の対象は学部学生（科目等履修生，特別聴講学生は除く。）とし，平成17年度入学の1年次生から年次進行とする。

（3）対象科目

全学教育科目，各学部の専門科目，及びその他すべての科目のうち，各学部において，「5段階評価によって成績を認定する科目」であって，かつ，

「卒業要件に算入できる科目」を対象とする。

なお、本学在籍中の、他大学履修による修得単位、留学先での修得単位についても、上記の2要件に当てはまる場合は、計算式に算入する。

入学（編入学を含む。）以前の他大学等における修得単位については、当面は計算式に算入せず、今後さらに検討する。

「評価せず」、及び「合格・不合格」による評価は計算式に算入しない。

（４）学生の申請によってGPA適用除外科目を選択できる制度

この制度は本来、学生の幅広い学習の意欲に応えるために設けられるものであるが、上記（３）を対象科目とすること等との関連で、当面は導入しない。

（５）履修登録取消し制度

「評価せず」の取り扱いとの関連から、当面導入しない。

ただし、学生によるWEB上での履修登録が可能となる場合等、早期に導入を検討する必要がある。

*学生のGPAを学修簿等によって学生本人及び指導教員等に通知する際の書式については、別途検討する。

４．本制度の利用方法及びきめ細かな指導態勢について

本制度の利用方法は、基本的に各学部の判断に委ねられるが、学生の学習意欲を高め、社会に対して本学の教育の質を保證するという本制度導入の趣旨に照らして、各学部等の修学指導への積極的な利用が求められる。平成18年度以降の本格利用に向けて、本制度の利用方法について各学部において十分に検討されるよう要請する。

また、GPA制度に基づくきめ細かな指導を行うためには、クラス担任、指導教員等の、アドバイザー制度を強化する必要がある。この点についても、各学部における検討を要請する。

５．成績評価基準について

成績評価基準の明示と適切な成績評価の実施は、GPA制度導入の前提である。これについては、平成14年6月の教務委員会委員長通知に基づき、平成18年度以降に向けて、各学部において改めて検討する必要がある。

６．広報について

本制度の趣旨を入学生に周知徹底させるため、修学ガイダンス等の強化はもとより、学部案内、入試案内、シラバス、学生便覧、WEBページ、センターニュース、広報誌「えるむ」等に制度の概要等を掲載することが望ましい。

また、社会に対する教育の質の保証という観点からは、メディアを通じた広報や、企業等へのアピールの方策についても検討する必要がある。

別 記

「秀」評価及びG P A制度の実施準備検討WG

WG 構成員

座長	教授	安藤	厚	(文学研究科, 教育改革室・役員補佐)
座長代理	教授	新田	孝彦	(文学研究科)
座長代理	教授	榎戸	武揚	(工学研究科)
	教授	須田	勝彦	(教育学研究科)
	教授	鈴木	賢	(法学研究科)
	教授	伴戸	久徳	(農学研究科, 教育改革室)

WG 開催状況

第1回	平成16年	11月	2日(火)
第2回	平成16年	11月18日	(木)
第3回	平成16年	12月10日	(金)